

或書曰此木出日南欲取當先斫樹著地積外
皮自朽爛其心至堅者置水則沈名沈香其
次在心皮之間不甚堅之置水不沈不浮與水
平者名曰淺香其最小⁶⁴⁶度⁶⁴⁷白者曰麝香葉

似冬青樹形崇竦

ちむのかうハしきひとつはハちすのかす二ハ
⁶⁴⁹
⁶⁵² きの⁶⁵³は⁶⁵⁴のか⁶⁵⁵する⁶⁵⁶ゑ⁶⁵⁷く⁶⁵⁸けれ⁶⁵⁹と⁶⁶⁰よし⁶⁶¹う⁶⁶²
きの⁶⁵⁷のか⁶⁵⁸する⁶⁵⁹ゑ⁶⁶⁰く⁶⁶¹けれ⁶⁶²と⁶⁶³よし⁶⁶⁴う⁶⁶⁵

65 オ

わらあくたのかすひとつ沈にもかたく

かうはしきさきかたあるをよくとりま

はしつゝ火にたきてみてよきかたをわり

をれ沈のわるきハいとあしきなりくち

たるところなとハたけすてつづくへし

沈ハくろくおもきをよきにす又くろくおも

けれともわろきありすこしたきて心みる

へしいるへきかすにいま一二両許くはへ

てつくへしかはのやうなるもの又むしの

すのやうにてちりはみたるものまし

りたるをよくゑりてかたなしてこまかに

わりくたきてつくへしいとよきはしる

めきい⁶⁸⁰ミあひてよくもつかれ⁶⁸²すさらは

わろき沈をすこしくはへてつくへし

66 オ

65 ウ

543 浪々⁶⁴³ 岩⁶⁴⁴ 浪⁶⁴⁵ 神⁶⁴⁶ 浪⁶⁴⁷

544 浪 香⁶⁴⁸ 岩⁶⁴⁹ 浪⁶⁵⁰ 神⁶⁵¹ 浪⁶⁵²

545 三 鶴⁶⁵³ 香⁶⁵⁴ 岩⁶⁵⁵ 羣⁶⁵⁶ 云⁶⁵⁷ 神⁶⁵⁸ 云

546 滅⁶⁵⁹ 神⁶⁶⁰ 滅⁶⁶¹

547 以⁶⁶²指⁶⁶³古⁶⁶⁴ 以⁶⁶⁵指⁶⁶⁶ 以⁶⁶⁷指⁶⁶⁸ 以⁶⁶⁹指⁶⁷⁰ 以⁶⁷¹指⁶⁷²

548 推⁶⁷³合⁶⁷⁴香⁶⁷⁵ 香⁶⁷⁶ 岩⁶⁷⁷ 推⁶⁷⁸合⁶⁷⁹香⁶⁸⁰ 神⁶⁸¹ 推⁶⁸²合⁶⁸³香⁶⁸⁴ 二

549 指⁶⁸⁵乃⁶⁸⁶ 鶴⁶⁸⁷ 指⁶⁸⁸ 香⁶⁸⁹ 指⁶⁹⁰ 岩⁶⁹¹ 指⁶⁹² 之⁶⁹³

550 シハ⁶⁹⁴ 香⁶⁹⁵ 岩⁶⁹⁶ 羣⁶⁹⁷ (無⁶⁹⁸し)

551 羣⁶⁹⁹乃⁷⁰⁰ 鶴⁷⁰¹ 羣⁷⁰² 香⁷⁰³ 羣⁷⁰⁴

552 文⁷⁰⁵乃⁷⁰⁶ 鶴⁷⁰⁷ 文⁷⁰⁸ 香⁷⁰⁹ 文⁷¹⁰ 岩⁷¹¹ 文⁷¹² 神⁷¹³ 文⁷¹⁴

553 程⁷¹⁵乃⁷¹⁶ 香⁷¹⁷ 岩⁷¹⁸ 程⁷¹⁹ 神⁷²⁰ 程⁷²¹

554 浪⁷²²々⁷²³ 鶴⁷²⁴ 浪⁷²⁵ 香⁷²⁶ 浪⁷²⁷ 浪⁷²⁸ 浪⁷²⁹

555 つめ⁷³⁰ 岩⁷³¹ つる⁷³²

556 手⁷³³ 鶴⁷³⁴、(て) 香⁷³⁵、こ⁷³⁶ 岩⁷³⁷、こ⁷³⁸ テ

557 せ⁷³⁹ 岩⁷⁴⁰ 乃⁷⁴¹ せ

558 こと⁷⁴²ねり⁷⁴³ 神⁷⁴⁴ こと⁷⁴⁵ねり⁷⁴⁶

559 常⁷⁴⁷生⁷⁴⁸ 神⁷⁴⁹ 常⁷⁵⁰生⁷⁵¹

560 云⁷⁵² 香⁷⁵³ 岩⁷⁵⁴ 云⁷⁵⁵ 神⁷⁵⁶ 云⁷⁵⁷

561 ま⁷⁵⁸ま⁷⁵⁹して⁷⁶⁰ 鶴⁷⁶¹ さ⁷⁶²して⁷⁶³

かなうすにふたを⁶⁸⁴おほひてやを⁶⁸⁵らつく
へし⁶⁸⁷ふるふにもやを⁶⁹⁰らふるふへし⁶⁹¹すこ
しつゝふるひてあまた⁶⁹²たひつくへしま⁶⁹³
つふるひたるを⁶⁹⁵よきにす

造沈香法

先取香稻米斗以六月上午日淨洗合炊入女⁶⁹⁶
菊六升和合之入水六升着一新瓶⁶⁹⁷中口封
閑遇⁶⁹⁸三其限⁶⁹⁹取其汁⁷⁰⁰醉也⁷⁰¹
以粟二升熬合黑色⁷⁰²
生絹裏⁷⁰³純⁷⁰⁴醉中⁷⁰⁵燂而⁷⁰⁶
用之⁷⁰⁷
即取入又作如前法也必至三度可用之然後⁷⁰⁸
取青桐木沈削去泥土令淨隨多少着其醉⁷⁰⁹
封閉瓶口埋土中不可令知其日可換至⁷¹⁰
三度其後出青桐曝干了者亦別取新瓶⁷¹¹
隨木多少蜂蜜⁷¹²淹瓶⁷¹³中隨木厚薄可用⁷¹⁴
蜜成三周或七周必成上品沈香也⁷¹⁵

生師口傳

香稻⁷¹⁶和名⁷¹⁷女菊⁷¹⁸和名⁷¹⁹加⁷²⁰
香乃⁷²¹多知⁷²²過三其限⁷²³過三⁷²⁴放栗⁷²⁵
用伏⁷²⁶淹栗⁷²⁷期⁷²⁸无出⁷²⁹必至三度⁷³⁰
作醉以初醉汁作之又以其⁷³¹
汁重作如此至三度之後用之⁷³²
久⁷³³栗⁷³⁴
青桐木⁷³⁵體如青桐但葉邊花形深入耳不實不高大但⁷³⁶
經橫延莖枝條速至以朽老枯槁者為好其朽爛之⁷³⁷
心至堅者及節目埋土中⁷³⁸過瓶口上丈⁷³⁹至期日其期也⁷⁴⁰
黑堅者為尤佳⁷⁴¹埋土中⁷⁴²七八分許⁷⁴³
檀⁷⁴⁴汁至三度⁷⁴⁵九十日一度⁷⁴⁶檀⁷⁴⁷經用出木⁷⁴⁸
以紙數籠盛青桐又⁷⁴⁹以紙張籠上之⁷⁵⁰塗⁷⁵¹干⁷⁵²

67 ウ

67 オ

66 ウ

562 か^ヒひ

神^{ヒカヒ} (か^ヒヒ) 貝ニテモアルヘシ

563 め^ヒ羣^ヒは

564 つき^ヒ神^ヒつき

565 け^ヒ香^ヒら。

566 もの^ヒ神^ヒも^ヒの

567 す^ヒり^ヒ香^ヒす^ヒり

568 は^ヒ鶴^ヒ香^ヒ岩^ヒわ^ヒ神^ヒわ^ヒ

569 か^ヒみ^ヒ香^ヒ羣^ヒ紙^ヒ神^ヒか^ヒみ

570 したい^ヒ鶴^ヒした^ヒひ^ヒ羣^ヒ次第^ヒ神^ヒしたい^ヒ

571 ひと^ヒくさ^ヒ神^ヒひと^ヒくさ

572 は^ヒま^ヒくり^ヒ鶴^ヒ、(は)ま^ヒくり^ヒ
香^ヒハま^ヒくり^ヒ岩^ヒ、ま^ヒくり^ヒ神^ヒは^ヒま^ヒくり^ヒ

573 た^ヒひ^ヒく^ヒ鶴^ヒた^ヒき^ヒ香^ヒ岩^ヒた^ヒ化^ヒ

574 か^ヒき^ヒ神^ヒか^ヒき

575 あ^ヒは^ヒせて^ヒ神^ヒあ^ヒわ^ヒせて^ヒ

576 あ^ヒま^ヒつら^ヒ神^ヒあ^ヒま^ヒつら^ヒ

577 か^ヒう^ヒは^ヒし^ヒ鶴^ヒ香^ヒか^ヒう^ヒば^ヒし^ヒ岩^ヒか^ヒう^ヒと^ヒし^ヒ

578 お^ヒほ^ヒえ^ヒす^ヒ鶴^ヒ岩^ヒお^ヒほ^ヒえ^ヒぬ

579 か^ヒは^ヒ羣^ヒか^ヒハ^ヒ神^ヒか^ヒは^ヒ

580 き^ヒ神^ヒき^ヒ

581 か^ヒき^ヒ香^ヒか^ヒき^ヒ岩^ヒか^ヒき^ヒ神^ヒか^ヒき^ヒ

隨木厚薄 ⁷³³ 用蜜欲過多耳 不可令知其處所

又法 楓香木 一斤 沈香 一兩 白檀 一兩 藿香 一兩

梨蘆根 一兩 香稻米酢 三升 蓴汁 二升 一合

鐵醬 ^{カナクソ} 一升 五合 已上用藥升但大豆汁濃煮加淹之 ⁷³⁵

右一瓶淨淹楓香木切以乍七種其入之口封閉 ⁷³⁶

土中埋之百日以來流水五升煎減四升入酢少 ⁷³⁷

又道入一瓶以土封閉經三七日取出曝干而後

隨木厚薄 ⁷³⁹ 蜜中淹之若日取出曝三周若五

周若七周即成上品沈香也

三七日也 ⁷⁴¹ 曝干 ⁷⁴² 法 同上 蜜中淹 ⁷⁴³ 欲蜜多過 楓香木

葉體等例但頗 ⁷⁴⁴ 蓴汁 ⁷⁴⁵ 搗絞取之 鐵醬 ⁷⁴⁶ 以盛盛釜若鼎埋土中其上燒火若

埋竈下欲常熱也經一計歲取出見之皆悉朽損如 ⁷⁴⁷ 塊形 ⁷⁴⁸ 肌破即取入水令啣塩氣如此數度常換水令告塩

氣取管者無塩氣即止欲任用即春篩若乍本

體施用也 ⁷⁴⁹ 與大豆汁平升法而和合云也 ⁷⁵⁰

右二方唐僧長秀所秘藏也以方造進公宗之 ⁷⁵¹

沈香其香甚好天曆十一年三月廿五日傳承之耳 ⁷⁵²

丁子

雷公炮炙論云丁子有雄雌雄顯小雌顯大似櫻棗 ⁷⁵³

68 才

68 ウ

582 ハかり 羣 はかり 神 ハかり

583 かく 神 かく

584 そ 神 そ

585 なつ 神 なつ ^夏

586 する 神 する ^汗

587 なり 羣 也

588 ふゆ 神 ふゆ ^冬

589 また 羣 又 神 また ^又

590 ひ 羣 日 神 ひ ^日

591 くさく 神 くさく ^種

592 たき 岩 ^た にき

593 くさく 神 くさく ^臭

594 ゆる 羣 入る、

595 いる 神 いる ^{入る、敷}

596 かす 神 かす ^敷

597 すら 羣 香 岩 羣 たら 神 たら ^{具敷}

598 す 羣 香 岩 羣 ね 神 ね ^{具敷}

599 をは 神 をは

600 くさき 神 くさき ^臭

601 物の 羣 もの、

602 也 羣 香 岩 なり

603 黏 搗 香 黏 搗 岩 黏 搗 神 黏 搗 ^{黏搗}

4

核方中多使雌力大故膏煎中用雄若欲使雄
湏去丁蓋子758々々759發人皆760雁也761

試丁子法以齒嚙有音辛物是為上不然者

朽古者也

丁子乃えたいとわるしおほきにてしと764
765

やかなるをよきにすふるくなりたるもし769
770

はにてしるつかひたるはかるくて口772
773

くゞミみるに774からくていとかうはし花と775

いひてまるなるものとくきとてくろみ776
777

たるものとハよきなりしろミてももの778
779

すちのやうなる物ましりたるわろし780
781

えりすつへきなりこれもやをらつきて782
783

まつふるはれたらむをよきにすへし784
785

よきハさひたるやうにそある

白檀782

内典云梅檀白謂之白檀783

白檀はかたくてきなるをよきにす784

わかき木ハやはらかにてかろくそある

うはかは少しけつりすて、つくへし785

薰陸 一名膠香 一名白乳 兼名香已上二名出
一名乳頭香出786 鑿方787

本草云微温主療風水毒腫去惡氣伏尸788

70 オ

69 ウ

605 朝下鶴羣朝臣否岩

606 革鶴否岩草羣神草

607 黏神黏

608 合香搗二千杵三殿上二見 鶴否岩羣合香搗三千杵

神合香搗二千杵

609 かなうす神鐵かなうす日

610 きね神杵きね

611 とく鶴とく否とくよく

岩とく神とく

612 つかるれハ神春つかるれハ

613 かす神津かす

614 なり岩かりなり

615 しろき岩しろしろ白羣白白白き神白しろ白き

616 こはり神粉こはり

617 きたる神著きたる

618 こ神粉こ

619 いらて神入いらて

620 あし神悪あし

621 のりはり神糊のり張はり

622 きたらん神著きたらん

623 つく神春つく

624 後岩後後

其形如白膠出天竺單于二國一名乳頭香
一名滴乳香一名膠香一名白乳香一名雲華
一名沈油

793 如本 ころくはにたるものおほかりよくみしるへし

わろきは乳頭といひてしるきものまし
りたるよきはひかりきハみてらふいろに
そあるくろミたるものやいしやなとまし
りたるをえりてすてつつくへし

麝香

雷公炮炙論云麝香多有偽者不如用

其香有三等一者名遺香是座子膾間
満タリ其産自於石上用蹄尖彈落

者落處一黑草木不生並焦黃人若

得此香價與明珠同也二名膾香採得

其堪用三名心結香被大獸驚心破了

因玆狂走雜諸群中遂乱投水被人取

得擊破見心流在脾上結作一大乾五塊可隣

山潤早聞之香是香中之次也凡使麝香並

用當子日開之不用苦納研用云く

814 813 さかうハくしりたるにはひしれたるやう

なるハわろしくしりあつめてかはや毛なと

70 ウ

71 オ

71 ウ

625 溝神 溝

626 蓐 鶴 香 岩 簾 羣 簾 神 簾

627 埋馬 矢下 鶴 埋馬 矢下 香 埋馬 矢下

神 埋馬 矢下ニ
下文ニヤトアリ

628 花乃 鶴 花シ 香 岩 花ノ 羣 花乃ノ

629 下 鶴 下シ

630 茶 坑 鶴 茶 坑 香 茶 坑 岩 茶 坑

神 茶 坑
茶 坑
茶器ノ事ヲ云

631 つほ 神 つほ

632 つき 神 つき

633 ふた 神 ふた

634 おおいて 岩 おおひて、 羣 おおひて

神 おおいて

635 そくひ 羣 そくひ 神 そくひ

636 かみおして 羣 かみおして 香 かみおして

637 むまのや 羣 むまのや 神 むまのや

638 あるいは 神 あるいは

639 くるほう 神 くるほう

640 梅花 神 梅 花

のましりたるをよくえりて茶碗のつき
 などにいれていしのすりこきなくハやな
 きのき⁸²³のかれたるしてすりくたきてふ
 るひて香ともみなあはせふるひてうへに
 かきまする人もありされともことものとも
⁸²⁸あまつらに⁸²⁹ひちくりてすこしつきて
 のちに⁸³¹いさくひききりつゝ⁸³²まさなきた
 とひなれ⁸³⁴もちゐるとてくふものゝ⁸³⁶あれに
 さすやうにさしあつめておしまるかして
 のちにつきあはすへしいたくつきあらか
 すれはかうすといふ香なきさかうをは
 水にひたして久しからすしてくちな⁸⁴²
 はのか⁸⁴³皮は⁸⁴⁴をもちてまきつゝみてきよき
 つちをはらひてさかうをおきてそのうへに
 ちいさき茶碗をうつふせてところくに
 火をきてひさしからすしてとりすてゝ
 すなはちあたゝかなるわたにつゝミてこれを
 おさむれは⁸⁴⁷かを⁸⁴⁸ます
 ねちけたれ共⁸⁴⁹ぐるほうはさかういれすゝめる
 いといとよし侍従はよしとておほくいれたるい⁸⁵²
 れたるハなかくあし

853
麴糖香

73
オ

72
ウ

72
オ

- 641 證類云 香罍 證類云、神 證類云
- 642 淺香 香罍 淺香、神 淺香
- 643 斫鶴 研神 斫
- 644 著香 罍 着神 罍
- 645 朽神 朽
- 646 淺香、鶴 羣 淺香 神 淺香
- 647 鹿 鶴 鹿 香 罍 羣 鹿 罍 鹿
- 648 神 頭書有り(貞丈按是ヨリ以下飯名書ノ文ハ皆山田尼ノ説ナルヘシ)
- 649 ちむ神 ちむ
- 650 ハちす 鶴、(は)ち 如本
- 651 香罍 羣 はちす 神 ハちす
- 652 かす 鶴 如本 かす 神 かす
- 653 きく 神 菊 菊
- 654 はな 神 はな 花
- 655 かね 神 かね 香
- 656 けれと 神 けれと
- 657 矢 香 罍 矢 神 矢
- 658 いと 神 いと 最
- 659 あし 神 あし 悪
- 660 むけ 神 むけ 無下
- 661 をとり 香 罍 おとり 神 をとり

本草云微温其樹似橘矣煎枝葉為香
似糖而黑去伏尸病出交廣以南又出晉

安岑州真淳者難得多以其皮及拓857

矣唯輕者為佳858

せむたうはかたいしほのいろにてそのしほの860

かはのやうにてうすひらにそあるまつ862

煎しとりてつくこの香はなハたかき864

かたし此香のなかにあかきけあるは865

かうはしいろくろきハ劣なり866

鬱金867

嶺南者有實似山薑菝868不堪噉之有青

鬱金又有熟鬱金者其中有以五種香

芳造之又只以一種造之

この香はさまくあり熟鬱金といふハむ

らさきのりのくちたるやうにていとかうはし869

きなる鬱金はまろたちてすろのみのい870

ろなり青鬱金といふハはしかみをほし871

たるさまにてわりたればきくちはの

ふかくつしみたるやうにそある

蘇合香

證類云梁書云中天竺國出蘇合香是諸香

汁煎872非自然物也

73 ウ

74 オ

74 ウ

75 オ

662 わらあくた神 わらあくた麝

663 か神 か香

664 かたく香罌 かたく神片 かたく方

665 かうはしき罌 かうハしき

666 神香 かうはしき

667 つ神 つく

668 わりをれ香 罌罌 わりとれ、

669 神と わりをれ

670 神朽 ちたる

671 神捨 はたけすて、

672 神香 つく

673 神も 鶴て 神も

674 神同分ノ数也 かつに 神かつ

675 神香 つく 罌春 神つ

676 神ち りはみ罌 ちりはミ神 ちりはみ

677 神香 つく 罌春 神つ

678 神よ きは罌 よきハ神 よきは、

679 神温 しるめき罌 しるめき

680 神温 いミ罌 罌は え

1 神温 いミ罌 罌は え

又云此香從西域973及崑崙來紫赤色重實
如燒之灰白者好874云師子矢者此是胡人誰
言拾遺云獅子矢赤黑色燒之去鬼氣蘇合
色黃白二物相似而不同是西國草木皮汁
所爲胡人將來欲貴之饒其名耳云々882
疑云似玉882至九年久者此色有赤脉胡人
送此法不言其術也云々

甘松

其艸種々也或如884或本刈
或本無此字
又如蒿筋又苗豆

出和香方本草云味甘温无毒885主惡氣卒
心腹脹滿令人身香888叢生葉細出姑臧梵

云那羅馱890

このかうはねをゑりすててつちなとましり
たるをハとりすて893やをらつくへしあかみ
てすきたるハわか896くさはしろくてか
らけたちたるそよかりける897

雞香901

證類云令人身香療齟齒煮汁含之902

本草云其樹葉似栗花如梅花子似棗903

核此雌樹也雄樹者花不實採花釀之以

成香出崑崙及交愛以南905

このかうは丁子のふしなりからあはとい

76ウ

76オ

75ウ

682 さ○は杏羣さらハ神さらは

683 つく羣春神つく

684 かなうすにふたをおほひてやをらつ
くへし杏岩(無し)

685 かなうす杏岩(無し) 神かなうす續

686 を杏岩羣 (無し)

687 やをら杏岩(無し) 神やをら弱

688 つく杏岩(無し) 羣春神つく

689 ふるふ羣 (無し) 神ふるふ弱

690 にも羣 (無し)

691 やをら羣 (無し) 神やをら弱

692 あまたたひ羣 杏岩羣 あまた、ひ

神 あまた、ひ續

693 つく神 つく春 694 まつ神 まつ先

695 よき神 よき善

696 女菊羣 薺

神 薺一字誤ニテ
女菊二字トス

697 旭羣 羣 旭杏 岩羣 旭神 旭續

698 遇羣 遇過 羣 過神 遇過下文二見

699 漉羣 杏岩 漉羣 漉神 漉續

700 醉杏 岩(無し)

701 升熬合杏 岩升 熬合神 升熬合令

702 裏羣 裏羣 裏神 裏羣 裏羣 裏羣

羣 裏羣 神 裏羣

ふものゝやうなり

藿香

南方草木物状曰六月採曝之及芬芳
可以着衣服中長秀曰八月採灑酒于納
亦早且採之乍露于二朝入昏敷不使風
氣通

安息 912

本草云其味宰苦平无毒主心腹惡氣
蒼疑云安息香堅於石蜜者今案有云

悉香者是今安息香彙耳

此香はたきものゝかれはみてからのやう
にそあり 918

楓香脂 919

一名白膠香 五月斫樹為坎
十一月採脂 920

艾納 921

本草云味甘温無毒去惡氣殺蟲

松木皮上緣衣名艾納合香中用之取之

其形如太糸長四五寸許如蘭花干枯之物

黏着其筋上方着松樹之蔦也今捨其

說相似之云々

甲香 928

一名流螺南州異物志云可合衆香燒之

78 才

77 ウ

77 才

703 煖 鶴 緩 岩 後 神 煖
704 又作如前法也 岩 又 如前法也、

705 必 鶴 如

706 旭 鶴 羣 鹿 杏 岩 鹿 神 鹿 瓶

707 換 鶴 棧 神 樓 換

708 旭 鶴 廻 杏 岩 鹿 羣 鹿 神 鹿 瓶

709 淹 神 淹 淹

710 旭 鶴 廻 杏 岩 鹿 羣 鹿 神 鹿 瓶

711 卓 鶴 享 杏 岩 羣 厚 神 卓 厚

712 鶴 杏 岩 ここに「或五周」有り

713 成 鶴 羣 或

714 女 菊 羣 廻 廻 字誤ニテ二字トス

715 和名加 宇多知 神 和名加 宇多知

716 手 鶴 午 杏 岩 羣 年 神 年 敷 手

717 放 鶴 苾 岩 羣 熬 神 熬 放

718 栗 鶴 杏 岩 羣 神 栗

719 栗 鶴 杏 岩 羣 神 栗

720 栗 鶴 羣 神 栗 杏 岩 充 岩 充

721 无 杏 岩 羣 無 神 无 无

722 以 初 鶴 必 以 初

723 葉 神 葉

便益芳獨燒之則臭 932

龍腦

本草云其味辛苦微寒出波津國形似白

松脂作杉木氣明淨者善久經風日或如雀

矢者不伐云合粳灰相思子貯之不耗云 935

青木香 937

本草云味辛温无毒葉似羊蹄而長大花

若菊其實黃黑

白芷香 938

本草云其味辛温无毒可作膏藥面脂潤

澤顏色一名蒼黑一名蒼白一名苻離一名沃

芳一名芳香生河東川谷可澤二八月採

根曝乾

零陵香 946

證類云味甘平无毒主惡氣心腹痛滿令體

香和諸香作陽丸用之得酒良葉兩相對

莖方也 948

桂心香

949 陶云葉似栢非也其色紫色或謂之紫桂

或云齒桂一名箇薰一名箇香一名藥使者其

葉如梯葉中有縱文三通云 952

79 ウ

79 才

78 ウ

724 徑 從 杏 罌 羣 縱 神 (縱 歟)

725 朽 神 朽

726 朽 神 朽

727 中 神 中 中 中 中 中 中 中 中

728 傳 神 應 杏 罌 應 羣 應 神 應

729 棧 神 換 棧

730 用 神 用 周 歟

731 木 神 水 木 歟

732 塗 神 杏 罌 陰

733 卓 神 卓 杏 罌 厚 羣 厚 神 卓

734 二 升 一 合 羣 二 升 五 合

735 藥 神 藥 切 以 乍 切 以 下

736 杏 罌 切 以 下 沉 歟 下 歟 切 以 下

737 其 神 其 共 歟

738 土 神 云

739 享 神 享 杏 罌 厚 羣 厚 神 享

740 日 取 出 曝 曬 杏 罌 (無 し)

741 等 神 等 如 歟 742 塩 神 塩 塩

743 悉 神 悉 744 朽 神 朽 朽

745 肌 神 脫 歟 747 棧 神 棧 換

746 咄 神 杏 罌 羣 神 吐 748 告 神 告 杏 罌 羣 去 神 去

956

本草云其味苦寒无毒去臭氣一名林蘭
一名牡蘭皮似桂而香又生大山
荳蔻香 957

本草云荳蔻味辛温元毒去口臭氣
出南海 959 一名龍眼 960 一名益智 961 一名芍藥 958

962
↓
香附子

梵云憂沙慕薩多有出西域主諸毛髮者

也炮炙論云於石臼木杵搗勿令犯鐵用之

た、のかうふしははまふてといふ物のや

うにてちひさし甘松のふしなり

964
茅香

本草云茅香花味苦温無毒止嘔吐六月

採唐人說魂諭之 967 フモト 雪山之砌多生此草

所謂吉祥草忍辱草芳是也當朝雖

有此草其氣不似被香者也

白朮香

本草云其味苦甘温无毒主風寒温痺 969

除熱消食二三八九月採根 曝乾 972 カラシホス

974
刑部卿範兼卿奉 勅抄集之也

975
長寛三年二月廿六日書写之

裏面両方校合了

977 976

81
ウ

81
オ

80
ウ

80
オ

749 香岩目

750 豆香岩 定 751 而鶴 香岩 可

752 合神 令合 753 僧鶴 傳

754 公宗 鶴 字宗 香岩 土家

755 櫻棗核

〔香〕 櫻茅、核 (頭書「櫻茅核 今本作山崔夏」)

〔岩〕 櫻茅核 櫻棗核 櫻棗核 櫻棗核

756 多鶴分 757 青神 青 758 蓋神 蓋

759 蓋鶴發 香岩 蓋發

〔羣發神〕 蓋發

760 皆神 皆 761 鹿神 鹿 762 法神 法

763 物神 青 764 乃鶴 香岩 是 羣ハ

765 いと神 いと

766 しとやか神 しとやか

767 ふるく神 ふるく

768 もし神 若 769 にて神 煮にて

770 する神 汁 する

771 かるくて口に神 かるくて口に

772 ここに「からくもあらずあたらしく
よきはく、みるに」無し

〔香〕 香岩 有り 〔羣〕 有り (「辛もあらず
あたらしくよきはく、みるに」)

773 かうはし花と神 かうはし。花と

74 まろ一甲 まろ丸 75 くき甲 蓋

- 776 り **香罍** 香罍 777 え **麴** 麴 **香罍** 香罍
- 778 す **香罍** 香罍 779 やをら **神** 神 やをら
- 780 つきて **神** 神 つきて
- 781 ふるはれ **神** 神 ふるはれ
- 782 **神** 神 ここに左記の三行有り
本草綱目釋名曰梅檀集解時珍香譜云皮實而色(改行)黄者為黄檀皮潔而色白者為白檀皮腐而色紫者為紫檀(改行)其木並堅重清香而白檀尤良
- 783 梅檀 **神** 梅檀 784 き **神** 神 き
- 785 つく **神** 神 つく
- 786 聖名菟 **神** 聖名菟 **香罍** 兼名苑 **香罍** 兼名苑
- 787 奘 **神** 奘 兼名苑 苑敷 和名抄引兼名苑
- 788 微温 **神** 微温 微温
- 789 主 **神** 主 主 主
- 790 療 **神** 療 療
- 791 單 **神** 單 單
- 792 滴乳香 **神** 滴乳香 滴乳香
- 793 如本 **神** 如本 如本 **香罍** 香罍
- 794 しろき **神** しろき しろき

- 795 ましり **神** ましり ましり
- 796 きハみ **神** 黄ハみ 797 いし **神** 石いし
- 798 など **神** など 799 えり **神** 摸えり
- 800 つく **神** 春つく
- 801 不如用 **神** 香罍 **神** 不如用
- 802 座 **神** 座 803 座 **神** 座
- 804 尖弾脱落 **神** 尖弾ヲ落 網目二
- 805 鷲 **神** 鷲 網目二
- 806 麝香採得 **神** 捕得發取之 麝香採得
- 807 信 **神** 信 **香罍** 結 信
- 808 大獸驚心 **神** 大獸驚心 網目二 捕逐敷
- 809 破 **神** 破 破
- 810 擊破 **神** 擊破 擊破
- 811 凡 **神** 凡 凡
- 812 使 **神** 使 使
- 813 用當子日開之不用苦納研用 **神** 用子日開之不用苦納研用

- 814 さかう **神** さかう 麝香
- 815 くしり **神** くしり 自別也
- 816 かは **神** かは 817 毛 **神** 毛
- 818 など **神** など
- 819 茶碗 **神** 茶碗 茶碗 茶碗
- 820 つき **神** つき 杯 瓷器ヲ云
- 821 すりこき **神** すりこき
- 822 やなき **神** やなき
- 823 き **神** き 木
- 824 くたき **神** くたき
- 825 あはせ **神** わせふ
- 826 かきまする **神** かきまする
- 827 ことの **神** ことの 別物
- 828 あまつら **神** あまつら 甘葛
- 829 ひちくり **神** ひちくり 浸
- 830 つきて **神** つきて 春
- 831 ちいさく **神** ちいさく
- 832 まさなき **神** まさなき 不正
- 833 たとひ **神** たとひ 譬
- 834 なれもちる **神** なれもちる 餅

835 くふもの **神** 食 くふもの

836 あれ **羣** あむに **神** れい あれ む殿

837 いたく **神** 強 いたく 838 つき **神** 香 つき

839 あら **神** 荒 あら 840 か **神** 香 か

841 うす **神** 失 うす

842 くちなは **神** 蛇 くちなは

843 かは **神** 皮 かは 844 はらひ **神** 掃 はらひ

845 おき **香** ひき **羣** (を) き

846 うつぶせ **神** うつぶせ 847 か **神** 香 か

848 ます **神** 増 ます 849 共 **神** 丸 共

850 くらほう **神** 黒 くらほう 方

851 よし **羣** 岩 し殿 よく **神** よく

852 いられたる **神** 衍文 いられたる

853 糖糖香 **神** 糖糖香

854 似糖 **神** 似糖 沙 網目二

855 交廣 **神** 交 廣

856 淳 **香** 岩 源

857 柘 **羣** 蠹 **神** 柘 蠹

858 矣唯輕者 **羣** 矣 網目二

859 せむたう **神** 糖 せむたう 唯之推較

860 かたい **神** 堅 かたい 861 しほ **神** 塩 しほ

862 うすひら **神** ら うすひら

863 ある **香** 岩 のる

864 煎しとりてつく **羣** 煎したる蜜に和合してほし

865 はなハた **神** 甚 はなハた

866 かきかたし **羣** かき かたし 「かはき」かくたし

867 嶺南者有實似山 **神** 大豆 網目云嶺南者有實似一

868 不堪噉之 **神** 不堪噉之

869 すろ **神** すろ

870 はしかみ **神** はしかみ

871 きくちは **神** 黄朽葉 きくちは

872 ろく **神** 成 ろく

873 西城 **神** 西城

874 云 **香** 岩 云、

875 師子 **神** 獅 師子

876 矢 **神** 尿二同 矢

877 獅子 **神** 獅 獅子

878 貴之 **神** 貴之人 貴之

879 云々 **羣** 云云 **神** 云々

880 玉臺丸 **神** 玉臺丸

881 馨疑 **神** 馨疑

882 送 **羣** 送 **神** 送

883 荊安草 **神** 荊安草

884 主 **神** 主

885 心腹脹滿 **神** 心腹脹滿

886 心腹脹滿 **神** 心腹脹滿

887 心腹脹滿 **神** 心腹脹滿

888 叢神蓑
889 姑臧神姑臧

890 神 ここに左記の二行有り
網目日時珍曰産於川西松州其味甘故名(改行)
金光明經謂之若彌嗎

891 ね神根 ね 892 つち神土 つち

893 やをら神弱 やをら 894 つく神春 つく

895 すき神透 すき 896 か杏園羣る

897 さは杏園羣さし神爽 さは

898 かはらけ神煤 かはらけ

899 たち神 たち 900 そ神 そ

神 ここに左記の二行有り
本草綱目藏器曰(舌香與丁香同種花實叢生其中心最大(改行)者為舌擊破有順理而解為兩向如舌故名乃母丁香也
雞

902 含鶴食羣含

903 其樹神(丁子香樹也) 其樹

904 核神核 核

905 交愛交愛 交愛(頭書に「交愛 今本作交州愛州」)

交愛神 交愛
交州愛州 州

906 日鶴日 日 杏園日

907 長秀神唐僧也見于上 長秀

908 年鶴下 杏年 園年

909 干鶴神干 干 杏干 園干

910 二朝于 杏 二朝

911 囊神囊 囊

912 神 ここに左記の三行有り
本草綱目集解曰安息香出西域狀松脂黃黑色為魂新者亦(改行)予軻珣曰生南海波斯國樹中脂也、狀著莖膠秋月采之又曰(改行)機曰或言燒之能集鼠者為眞

913 宰神宰 宰

914 无神無ノ古字 无

915 主神主 主

916 から々神辛 から々

917 やう神やう やう

918 あり神る殿 あり

919 神 ここに左記の三行有り
本草綱目集解曰楓香脂所在大山中皆有之類曰今南方(改行)及關陝甚多樹甚高大似白楊葉圓而作岐有三角而香二月(改行)有花白色連著實大如鴨卵八九月熟時暴可燒

920 脂神脂 脂

脂神

921 神 左記の三行有り
本草綱目卷廿一章部苦類桑花之下附艾納時珍曰艾納生老松樹上(改行)綠苔衣也一名松衣和合諸香燒之烟清而聚不散則有艾納香與此木(改行)同

922 綠衣神綠苔衣 綠衣

923 名艾納神ノ艾 名艾納

924 糸神糸 糸

925 着神着 着

926 着神着 着

927 於神按 於 杏園羣按

928 神 ここに左記の四行有り
本草綱目釋名曰流螺假豬螺(改行)屬名甲香集解曰生南海今嶺(改行)外(中近海州群及明州皆有(改行)之

929 神 ここに左記の頭書九行有り
貞丈按つれく草云(改行)甲香ハほら貝乃やう(改行)なるがらいさくて(改行)口乃ほどのほそなが(改行)にしていでたる貝乃(改行)ふたなり武蔵國金(改行)沢と云浦に在しを(改行)所の者へなたりと(改行)申待るといひし

930 南州異物志 南州異物志

931 可合衆香神綱目二引之 可合衆香

932 益神益 益

933 臭神臭 臭

934 辛 麩 辛 神

935 合 稷 灰 神 合 稷 灰 種 米 炭 類 目 録 第 一 卷 一 頁

936 耗 神 耗

937 神 ここに左記の三行有り

本草綱目釋名日時珍曰木香草類也本名蜜香因其香氣如蜜也緣(改行)沈香中有蜜香訛此木香爾昔人謂之青木香後人因呼馬兜鈴(改行)根為青木香乃呼此為南木香廣木香以別之

938 芷 神 送

939 辛 神 辛

940 作 神 作

941 一名 芫 神 一名 芫 許 芫 灰

942 一名 芫 神 一名 芫 許 芫 灰 一名 芫 一名 芫 一名 芫

943 符 離 神 符 離 符 離

944 沢 芳 神 沢 芳 澤

945 生 河 東 川 谷 可 澤 神 生 河 東 川 谷 可 澤 下

946 神 ここに左記の三行有り

本草綱目集解曰志曰零陵香生零陵山谷葉如羅勒南越志云土人名(改行)蕪草又名薰草即香草也山海經薰草即此

947 陽 羶 湯 神 陽

948 莖 神 莖 莖

949 陶 云 神 陶 云 本 草 也 陶 云 本 草 也 香 陶 云

950 箇 桂 神 箇 桂 又 日 箇 桂

951 箇 蕪 神 箇 蕪

952 梯 神 梯 神

953 中 羶 神 中 羶 無 神

954 臭 氣 神 臭 氣 臭 氣

955 友 吞 岩 大 羶 火 神 友 大

956 荳 菝 香 神 荳 菝 香 荳 菝 香

957 荳 菝 味 辛 神 荳 菝 味 辛 荳 菝 味 辛 荳 菝 味 辛

958 臭 氣 神 臭 氣 臭 氣

959 一 名 龍 眼 神 一 名 龍 眼 一 名 龍 眼

960 一 名 益 智 神 一 名 益 智 益 智 益 智 下 八 別 物 子 下

961 茵 綠 神 茵 綠 茵 綠 茵 綠

962 神 ここに左記の一文有り

綱目釋名曰金光明經謂之月萃吟

963 憂 鬱 香 神 憂 鬱 憂 鬱

964 茅 香 神 茅 香 茅 香

965 心 神 心 神 心 神

966 嘔 吐 神 嘔 吐 嘔 吐 嘔 吐

967 魂 淪 神 魂 淪 魂 淪 魂 淪

968 品 神 品 神 品 神

969 無 神 無 神 無 神

970 溫 神 溫 神 溫 神

971 痺 神 痺 神 痺 神

972 食 神 食 神 食 神

973 曝 乾 神 曝 乾 曝 乾 曝 乾

974 裏 面 兩 方 校 合 了 神 裏 面 兩 方 校 合 了 裏 面 兩 方 校 合 了

975 裏 面 兩 方 校 合 了 神 裏 面 兩 方 校 合 了 裏 面 兩 方 校 合 了

976 神 左 記 の 藤 原 範 兼 伝 有 り 範 兼 卿 其 先 左 大 臣 武 智 麻 呂 第 四 子 參 議 巨 勢 麻 呂 十 三 男 中 納 言 貞 綱 五 孫 山 井 三 位 永 賴 (改 行) 四 代 大 學 頭 從 四 位 上 季 綱 子 友 實 本 名 保 實 勘 解 由 次 官 從 五 位 下 其 子 能 兼 藏 人 式 部 少 輔 (改 行) 從 四 位 下 其 子 範 兼 佐 渡 近 江 權 守 大 學 頭 東 宮 學 士 式 部 小 輔 刑 部 卿 從 三 位 母 兵 部 少 輔 為 賢 (改 行) 女 也 崇 德 院 御 宇 保 延 五 年 乙 卯 三 月 五 日 卒 五 十 四 和 哥 童 蒙 抄 撰 者

977 神 ここより上下両卷の裏書勘物記載

神 ここより上下両卷の裏書勘物記載

第一章 第三節

恩頼堂文庫所蔵『薫集類抄』翻刻と校異

凡例

一、四天王寺国際仏教大学図書館蔵恩頼堂文庫本「薫集類抄」上下二巻を底本とした。

一、裏書勘物を含む本文並びに脚注に於ける翻刻、校異の方向性は、本研究論文所収の「西園寺文庫所蔵『薫集類抄』翻刻と校異」凡例に原則として等しいが、例外も存する。

・他本に対して唯一の異文が存する場合は米印（※）とアルファベットの大字、小文字を、また、同じく賀茂清茂書写本を底本とする河村文庫本に対して異文が存する場合は米印（※）と西園寺文庫本並びに河村文庫本翻刻中に附した算用数字による番号を示した上で、諸本に一定の順序を定めて之を脚注に記した。

・本伝本中に多数存する傍注、書入れ並びに記号の殆どは、河村文庫本中にも見られぬ独自のものであったが、他本に対する異文や独自の本文理解として認められる場合を除き、脚注の対照としなかつた。

一、■ないし◆は、旧蔵者或いは書写者が書き入れたと思われる傍注、記号について、その誤りを改める為に添付した濃紺の小紙片（5ミリ四方形程度）を意味する。

註入 削除あり

一、上下巻裏書勘物は、項目毎に点線で囲んだ上で大文字アルファベットを附し、通し番号とした。

一、裏書勘物中で諸本間に異同の認められた箇所には、本文とは独立した番号を算用数字とアルファベット、並びに米印（※）を、本文の異同の場合に等しい方向性によって振り、脚注に異同を示した。

一、脚注での恩頼堂文庫本の略称は \square 恩とした。

1
薰
集
類
抄

上

「
表
紙

※ 3

2 園林文庫
薰集類抄上

諸方 傳方之人依時代立次第

梅花

侍從

落葉

坎方

增損化度寺

百步香 承和

6 令人體香

潤面膏 落梅公主

建醫師衣香

燒香

供養香

觀世音菩薩留濕香

荷葉

菊花

黒方

薰衣香

5 裏衣香

百和香 付化度寺百和香

洛陽香

甲煎 丹陽公主

香粉

7※ 印香

金剛頂經香

4 付洛陽薰衣香

會昌薰衣香
增損薰衣香

1 丁才

1 丁ウ

1 西 薰集類抄全

神 薰集類抄

古 薰集類抄上
鶴 薰集類抄上下
岩 羣 (外題無し)

3 鶴 頭書有り (「益根按宗
洪芻 (改行) 香譜有唐化
度 (改行) 寺牙香法」)

7 西 印 神 印 本
鶴 印 杏 印 羣 印
古 (欠) 印

梅花 擬梅花之香也春尤可用之

閑院左大臣 ⁸※ 冬副 贈太政大臣正一位
右大臣内膳三男 ⁹

沈八両二分 ¹⁰ 占唐一分三朱 甲香三両二分

甘松一分 白檀二分三朱 丁子二両二分

麝香二分 薰陸二分 ¹¹

賀陽宮 名賀陽 二品治部卿
桓武天皇弟七親王

沈八両二分 ¹²※ 蔴_セ陶一両三朱 甲香三両二分

甘松一分 白檀二分三朱 丁子二両二分

麝香一分 薰陸一分 ¹³

滋宰相 滋野貞主 参議官内卿正四位下
尾張守家譯子 ¹⁴

沈八両二分 ¹⁵ 或本 占唐一分三朱 甲香三両一分 ¹⁶ 或二分
用心

甘松一分 白檀二分三朱 丁子二両二分

麝香二分 ¹⁷ 已上小十五両三朱

┌ 2 丁才

┌ 2 丁ウ

8 西副神 副古 杏 岩 羣 嗣
鶴 嗣 (上書き有り)

12 西蔴陶 神 蔴陶 (蔴糖也) 古蔴唐
岩 鶴 蔴陶 (セントウ) 杏 蔴陶 羣 蔴陶

沈四兩一分 占唐四朱餘 甲香一兩二分三朱

甘松三朱 白檀一分一朱餘 丁子一兩一分

麝香一分 薰陸三朱 已上小八兩¹⁸⁾

沈二兩二分二朱 占唐三朱 甲香一兩^{A※一}朱

甘松二朱 白極^{B※檀力}五朱 丁子三分二朱

麝香四朱 薰陸二朱 已上小五兩一分四朱

四條大納言 源定 正二位大納言左近大將
陸織天皇源氏

沈八兩二分 甲香三兩二分 ※19 甘松一分 五

白檀二分三朱 四 丁子二兩二分 二 麝香二分

薰陸一分 六

沈四兩一分 甲香一兩三分 甘松三朱

白檀一分一朱 丁子一兩一分 麝香一分

薰陸三朱 合八兩一朱

八條宮 本康 一品式部卿
仁明天皇第五親王 母從四位上滋野繩子 貞主女也

「3 丁ウ

「3 丁才

A 他本「一兩一朱」

B 他本「白檀」

19 西 神 古 鶴 ここに「三」
あり 杏 岩 恩 なし

沈八兩二分

唐一分三朱

甲香三兩二分

甘松一分

白檀二分三朱

丁子二兩三分

麝香二分

薰陸一分

小野宮 ²⁰
惟喬
文德天皇第一親王

沈八兩二分

占唐一分三朱

甲香三兩一分

甘松一分

白檀二分三朱

麝香二分

丁子二兩二分 ²¹
薰陸一分 小定

4 丁才

染殿宮 貞保 二品式部卿
清和天皇弟四親王

沈八兩二分

丁子二兩二分

²²香敏
甲子三兩二分

占唐一分三朱

白檀二分三朱

甘松一分

薰陸一分

麝香二分

²³或者諸香合蜜之後可和麝
²⁴也此說可 秘云、

右大辨公忠 從四位下 大藏卿國紀男 仁和源氏也
²⁵女典侍滋野直子也仍傳之 ²⁶

沈八兩 或八兩二分

占唐一分三朱

甲香二兩二分 或三兩一分

甘松一分

白檀二分三朱

丁子二兩二分

4 丁ウ

麝香二分 薰陸一分

沈四兩一分 占唐四朱半 甲香一兩三分

甘松三朱 白檀一分一朱半 丁子一兩一分

麝香一分 薰陸三朱 已上小定

²⁸占唐代入_二麝香一案之麝香本自在_二合種_一

中_二而其代入之者又可_三加增_二麝香分_一歟

大和常生³⁰ 延喜御時御藏小舍人也

沈四兩一分 丁子一兩一分三朱 占唐四朱半 5丁才

甲香一兩一分 甘松三朱 白檀一分一朱半

麝香一分 薰陸三朱

八条大将 藤原保忠 大納言正三位右近衛大将兼陸奥出羽按察使
左大臣時平一男 母本康親王女從四位上廉子女王

沈四兩二分 麝香二分四朱 甲香三兩

丁子三兩 薰陸一兩 白檀三分 大定

沈四兩三分 甲香三兩 丁子三兩

薰陸一兩 白檀三兩 ³¹ 麝香二分四朱 大定

右皆半分造合足 ³² 一躋法也而此数半躋合 ³⁴ 5丁ウ

之中入青木香此合物不入之

東三條院 ³⁵ 詮子 円融院女御 一条院母后
入道前太政大臣兼一女 ³⁶

³⁷

沈八両 二分 占唐一分三朱 甲香三両二分

甘松一分 白檀二分三朱 丁子二両二分

麝香二分 薰陸一分

沈四両 一分 占唐四朱半 甲香一両三分

甘松三朱 白檀二分一朱半 丁子一両一分

麝香一分 ³⁸ 薰陸三朱 小定

小一条皇后 ³⁹ 城子 三条院女御 小一条大将濟時一女
大納言公任 同用之 ⁴⁰

沈八両二分 占唐一分三朱 甲香三両二分

甘松一分 白檀二分三朱 丁子二両二分

薰陸一分 麝香二分 已上小十六両二分 大五両二分

沈四両一分 占唐四朱余 甲香一両三分

⁴¹ 三朱ヲ 減すへし

甘松三朱 小輕 白檀一分一朱余 丁子一両一分

麝香一分 薰陸三朱 ⁴³ 已上小八両

6丁才

39 西 城子 古 杏 岩 城子 鶴 城子

沈二両二分一朱 占唐三朱 甲香一両二朱 ㄥ 6 丁ウ

甘松二朱 白檀五朱 丁子三分二朱

麝香四朱 薰陸二朱 已上小五両一分四朱

小一條院 ⁴⁴ 諱教明 ⁴⁵ 三条院太子 母皇后城子

沈八両二分 占唐一分三朱 甲香三両一分

甘松一分 白檀二分三朱 丁子二両二分

麝香二分 薰陸一分 ⁴⁶

件方承保三年三月晦日典薬頭雅忠朝臣

注送之父忠覚入道於小条院所写取也即

忠覚自筆也

ㄥ 7 丁才

山田尼 小一條皇后侍女山田中務 後拾遺作者 因幡權守致貞女

沈八両二分 丁子三両三分 占唐一分三朱

甲香三分 甘松一分 白檀三分

麝香二分 薰陸一分

尼云梅花にハ薰陸は両数すこしたらさて ⁴⁷

いるへし

沈二両四朱 甘松二朱 甲香二分二朱

ㄥ 7 丁ウ

白檀二朱 丁子二分四朱 麝香四朱

いまふたくさの香50 いるなれ51 と名たしかに
しらす52

二条関白53 敬通 関白太政大臣従一位 道一公二男54

沈八両二分 占唐一分三朱 甲香一両二分55

甘松一分 白檀二分三朱 丁子二両二分

麝香二分 薰陸一分

治暦四年四月六日被合「梅花一臍」56 大香十五57

両三分二朱甘葛合定十六両一分三朱

堀川右大臣 頼宗 従一位右大臣 道一公三男60

沈八両61 占唐62 甲香二両二分

甘松一分 白檀二分 麝香二分

薰陸二分 丁子二両二分

参議師成 従二位 小一条大將濟時孫 中納言通任男

沈香八両二分 占唐一分三朱 ※^C

甘松一分 白檀二分三朱 丁子二両二分

麝香二分 薰陸一分 已上小十五両三分

「 8 丁ウ

「 8 丁オ

50 西 いる 神 いる入

C 他本ここに「甲香三両」あり

沈香四兩一分 占唐四朱余 甲香一兩一分三朱

甘松三朱 白檀一分一朱余⁶³ 丁子一兩一分

麝香一分 薰陸三朱⁶⁴ 已上小八兩

或說

甘松香花一分 沈七兩三分 藿香一分四朱

白檀一分三朱⁶⁵ 熟鬱金三分 安息二兩一分

不知誰人

沈八兩 摩訶⁶⁶ 甲香三兩二分

甘松二分 麝香二分 薰陸二分

┌ 9 丁才

丁子二兩二分

甘松一分 沈七兩二分 甲香二兩二分

白檀二朱 丁子二兩二分 藿香四朱

鬱金二分

荷葉 擬荷香也 夏月殊施芬芳

公忠朝臣⁶⁷ 天曆六年二月廿一日甲午進之

甘松花一分 沈七兩二分 甲香二兩二分⁶⁸ 或一分

┌ 9 丁ウ

白檀二朱 ⁶⁹ 或三朱 熟麝金二分 代麝香 藿香四朱

丁子二両二分 安息一分 或無

甘松三朱 沈三両三分 ⁷⁰ 或無 甲香一両一分

⁷¹ 白檀一朱 或本無 熟麝金一分 藿香二朱

丁子一両一分

山田尼

はちすの花のかとそいふなる

一臍をミつにワかちてあはする ⁷²

沈二両四朱 ⁷³ 甘松二朱 甲香三分二分

白檀二朱 ⁷⁴ すこし 麝香四朱
たらて

⁷⁵ いまふたくさの香いるなれとなたし ⁷⁶ ⁷⁷ ⁷⁸

⁷⁹ かにしらす

或説

甘松香花一分 沈七両二分 藿香一分四朱

白檀一分三朱 ⁸⁰ 若二分 熟麝金二分 安息二両一分

不知誰人

甘松一分 沈七両二分 甲香二両二分

白檀二朱 或三 丁子三両二分 藿香一分四朱

┌ 10 丁才

┌ 10 丁ウ

70 西 神 鶴 香 岩 二分
古 三分 羣 二朱

79 西 神 杏 古 羣 ず 鶴 岩 ぬ

80 西 杏 古 一分三朱
杏 古 一分二朱 若三分 鶴 岩 一分二朱 若二分

熟麝金二分 安息一分

侍從 ⁸² 亦名拾遺 補闕
秋風蕭颯として心にくきおりによ^D
たるへし ⁸³ へ^チ ^チ ^チ

閑院大臣 沈四両 丁子二両 甲香一両 已上大

甘松一両 熟麝金一両 已上小

賀陽宮 或号院可尋之

沈四両 丁子二両 甲香一両

甘松一分 麝金一分 ⁸⁴

滋宰相 小一条皇后方向之 ⁸⁵
又入道一品宮女房陸奥方向之

沈四両二分 丁子二両二分 甲香一両二分 已上大

熟麝金一両 甘松一両 已上小 ⁸⁶
大九両四朱 小廿七両二分

或加三占唐大一分二又説停二麝金二加三麝香小二分一

又或用三黄麝金一

沈六両三分 或小 丁子三両三分 或小三 甲香二両一分 或小一
六両 分 兩二分 11 丁ウ

D
古西神鶴杏岩羣よそへ
よそ

鬱金二分 甘松二分

或小三朱

若加占唐一分三朱 若用麝香一分

縱雖_ニ頗減_ニ不_レ可_レ過入之

八條宮

沈四兩 丁子二兩 甲香一兩

甘松一分二朱

⁸⁷ 沈四兩 丁子二兩 甲香一兩 _{已上大}

甘松一兩 熟鬱金一兩 _{已上小}

一説入麝香 一説黃鬱金 或加_ニ占唐小一分合六

種而此本無之 和_レ蜜合搗三千許杵⁸⁸

此二者不_レ伝_レ男是承和仰言也 延喜六年

二月三日典侍滋野直子朝臣所獻也

沈四兩 丁子二兩 甲香一兩 _{已上大}

甘松一兩 熟鬱金五兩 占唐一分 _{已上小⁸⁹*}

⁹⁰ 沈_※六兩 丁子三兩 甲香一兩二分

甘松二分 鬱金二分 占唐三朱 _{已上小}

小野宮 沈四兩二分 丁子二兩二分 甲香一兩二分 _{已上大}

┌ 12 丁ウ

┌ 12 丁才

89 鶴 のみ「小」無し

熟鬱金一兩 已上小

染殿宮

沈四兩 大 丁子二兩 甲香一兩

甘松一分一朱 麝香三朱 占唐一分

或諸香合蜜之後可和麝也 此說可秘

公忠朝臣

沈六兩 丁子三兩 甲香一兩二分

甘松二分 熟鬱金二分 占唐三朱 皆小

大和常生

沈四兩 丁子二兩 甲香二兩 或本一兩

鬱金二分 ※若無以麝代レ之 甘松二分一朱 已上小

沈四兩 丁子二兩 甲香二分

甘松二朱 麝香二朱

右二方是藏人所小舍人大和常生之秘方也

件常生延喜聖代與公忠朝臣同時相並奉⁹²

合香之事者也⁹³

八条大将 宇治關白用此方

13 丁才

13 丁才

沈四兩一分94※ 或二分 丁子二兩二分 甲香二兩已上大

甘松一兩 熟麝金一兩已上小

大将者八条式部卿親王之孫也 然則伝来※
方可同承和方而有相誤95 甚可疑之96

朱雀院 東三條院用之

沈四兩 丁子二兩 甲香一兩

甘松一分三朱 藤陶一分三朱已上 97 小

98 右方自天曆御時所令伝給也取煎蜜微

火以春篩占唐入蜜且煎攪撥合了99 100

之後入諸搗香以匙調和先以目學計101

搗香程調占唐之蜜程多於香少於

香尤為拙以能均成101 E※ 為合了搗三千六

百杵畢取出作丸斤量之後入瓷壺

埋水辺得陽氣之地

藤原致忠 從四位上右馬頭 大納言元方男

沈四兩二分 丁子二兩二分 甲香二兩

麝香一分 甘松一兩 14 丁ウ

94 鶴のみに二分或二分

E 他本「為巧合」

藤原保昌 正四位下攝津守 致忠男 ¹⁰²

沈四兩

丁子二兩

甲香一兩

甘松一兩

鬱金一兩

占唐一分 已上小

右方父子相送 ¹⁰³ ¹⁰⁴ 如何

小一條院

沈四兩二分

丁子二兩二分 ¹⁰⁵ ¹⁰⁶

甲香一兩二分 已上大

熟鬱金二兩

甘松一兩 已上小

右方雅忠朝臣注送之委見梅花方

山田尼

沈四兩

丁子二兩 ¹⁰⁷

甲香一兩

熟鬱金一分一朱

若無入三甘松一分二朱一

二條関白

沈四兩

丁子二兩

甲香一兩 已上大

甘松一兩

治曆四年四月六日被合三侍從一臍 ¹⁰⁸ 小香七 ¹⁰⁹

兩二分四朱

堀川右大臣

15 丁ウ

104 西連神連古鶴杏岩違

沈四兩
丁子二兩
甲香一兩
甘松一分

此方殊芳若有秘說歟不レ注ニ大小兩ニ不審

參議師成

沈四兩二分
丁子二兩二分
甲香一兩二分
110

熟薔金一兩
甘松一兩
已上小大九兩四朱

或說占唐大一分 又說薔金を停て麝香

を小二分加或黃薔金を用云、

菊花 111
菊香に、たるにほひにやあらん

不知誰人

沈四兩
丁子二兩
甲香一兩二分

薰陸一分
麝香二分
甘松一分

112
清慎公云菊花方者長生久視之香也

聞之薰之者却老増レ寿枇杷左大臣

習伝レ之亭子院前裁合左方●用ニ菊花

方ニ右方●用ニ落葉方ニ云、我好此方常

┌ 16 丁才

┌ 16 丁ウ

用之但麝香一分可令加進之菊

花盛開其香芬馥時析花置傍和

合之或人云舊干菊花一兩許加之

云、水邊菊ノ下埋レ之經二七日許入瓷瓶
一堅封口

取出又經三二七日許用之若有急用者

不用此說而已

落葉113 秋のゆふくれしくれするほともみち
のちりなとするととき心すこきにやあらん

17 丁才

不知誰人

沈四兩

丁子二兩

甲香一兩二分

薰陸一分

麝香二分

甘松一分

¹¹⁵ 黑方 ¹¹⁴

又云薰衣香此說誤歟117
冬凍氷時深有其匂不被封塞

閑院大臣 長良 清経 元名等同之

沈四兩

丁子二兩

白檀一分

甲香一兩二分

麝香二分

薰陸一分已上大¹¹⁸

17 丁ウ

賀陽宮

沈四兩

丁子二兩

白檀一分

甲香一兩

麝香二分

薰陸一分

122

源宰相

小一条皇后與此方無相違
※119
※120
※121
入道一品官女房陸奥方同之
參議師成又同之

沈四兩

丁子二兩

甲香一兩

或二分
126

薰陸一分

或二分

白檀一分

或二分

麝香二分

已上大八
兩二分
127

沈六兩

丁子三兩

甲香二兩一分

18 丁才

薰陸一分三朱

※128

白檀一分二朱

麝香三分

已上小十
二兩三分
129

沈四兩

丁子二兩

甲香一兩二分

薰陸一分

白檀一分

麝香二分

已上小八
兩二分

四條大納言

源 小野宮同之 染殿宮又同之

沈四兩

丁子二兩

甲香一兩二分

白檀一分

薰陸一分

麝香一分

八条宮

18 丁ウ

120 西連神連連歌古鶴杏岩違

123 小一条院西小一条院方

神方歌小一条院

古鶴杏岩小一条院

128 西神杏岩羣三古鶴二

沈四兩

丁子二兩

白檀一分

甲香一兩二分 或大一兩

麝香二分 或一兩

薰陸一分 已上

¹³¹ 或云至要方也延喜六年二月三日典侍滋野直子朝臣所献也

沈六兩

丁子三兩

白檀一分二朱

¹³² 甲香一兩一分

麝香三分

薰陸一分三朱

已上小

沈八兩

丁子三兩

麝香三兩

薰陸二兩

白檀二兩

甲香三兩

蘇合二兩 已上大

蜜五合

「 19 丁才

公忠朝臣

沈四兩

丁子二兩

甲香二分

少輕

少輕

薰陸一分

少輕

白檀一分

少輕

麝香二分

上品香等頗輕可用三意之二若例香如三兩數一

大和常生

沈三兩

丁子一兩二分

甲香一兩一分

白檀一分

薰陸一分

麝香二分

八条大将

「 19 丁ウ

沈四兩二分 丁子二兩二分 甲香二兩二分

麝香二分 白檀二分 薰陸三分133 已上大134

¹³⁵ 可疑之由委見侍從一

朱雀院 東三条院同之

沈四兩二分 薰陸一分 白檀一分

丁子二兩 甲香一分 麝香一分四朱已上 小

藤原国轉 從五位下前出羽守

沈四兩 丁子二兩 甲香一兩二分或大 二分

麝香二分 白檀二分 薰陸二分 已上大

沈四兩二分 丁子一兩二分 甲香一兩二分 已上大

白檀二兩小 薰陸二兩小 麝香一分大

大一兩三朱小三兩一分 大一分三朱小一兩三朱 三朱

大二分小六分 大一朱半小四朱半

¹³⁶ 右二方尤香云、六物各細搗以練篩之

¹³⁷ 任¹³⁸數斤定之後和合攪合五六十度許

¹⁴⁰ 訖即合篩二度亦推各分兩斤定了以レ

┌ 20 丁才

┌ 20 丁ウ

136 香 罌 ここに次の書入有り

押紙 今之通用、一斤四拾目、一兩拾目、一分或五分、一朱四分餘、

※ 罌 は22丁才に有り

蜜入ニ土器中ニ坑埋ニ炭火ニ居其上¹⁴¹微¹⁴²煎之
沫立之後以綿曳取抹以¹⁴³指¹⁴⁴深¹⁴⁵蜜非暖¹⁴⁶非¹⁴⁷

寒¹⁴⁸欲¹⁴⁹誤冷¹⁵⁰也
熱則失¹⁵¹香
先以六種香入ニ大革篋蓋ニ和蜜

能黏合了入ニ鉄白¹⁵²搗千杵取出入ニ瓷壺¹⁵³

不¹⁵⁴レ¹⁵⁵口¹⁵⁶ニ八分許能封ニ其口¹⁵⁷掘¹⁵⁸ニ¹⁵⁹中¹⁶⁰法¹⁶¹ニ¹⁶²尺

許埋之春夏三日秋冬五日也¹⁶³※

自有濕
氣

藤原致忠 從四位上 右馬頭 大納言元方男

沈四兩二分 丁子二兩二分 春のときにハ一分許¹⁶⁴
秋は小一分ます¹⁶⁵

甲香一兩 よきハ一分にてよし 薰陸一分
たらぬよし

白檀一分 已上大

四條宮 太皇太后宮遊子 三條関白頼忠一女 母中務¹⁶⁶代明親王女¹⁶⁷

沈四兩 丁子二兩 白檀一分

甲香一兩 麝香二分 薰陸一分

¹⁴⁶あはする次第まつ沈と丁子とをあはせ¹⁴⁷

¹⁴⁸て次に甲香次に白檀次麝香次に薰陸さ

「 21 丁才

「 21 丁ウ

144 西 神 杏 岩 臺 土 古 鶴 云

145 西 神 臺 古 「和蜜程欲頗
堅(改行)埋則自有濕氣」
杏 岩 自有濕氣(改行)書
闕三字、

※136

今之通用

てひとつにひちくりてあはするかよきなり
 六朱を一分とす四分を一兩とす十六兩を小
 の一斤とす¹⁵⁰冊八兩を大の一斤とす¹⁵¹小の三兩¹⁵³
 を大の一兩とす¹⁵⁴小の三分を大の一分とすもし
 すこしあはせむとおもは、これらをつもり
 てあはすへきなり侍從梅花をか¹⁵⁵しうかを¹⁵⁶
 りたれともたきものともおほえすすこし
 なりともくろほうをもちあるへきなり

一斤四於目 壹兩於目 壹分小匁五分

壹洙四分餘 (点線内は押紙・左記二行の上に有り)

觀教大僧都 延曆寺 公忠弁息 三条院御持僧

沈四兩 丁子二兩 甲香三分 22丁才

白檀三分 薰陸二分 麝香一分

藤原知章 正四位下春宮亮 関院贈太政大臣傳也 分朱有¹⁵⁷後用心

沈四兩 丁子二兩 甲香一兩二分

麝香二分 白檀二分 薰陸二分 已上大

已上成粉員¹⁵⁸ 蜜三合許可入

藤原保昌

沈四兩 丁子二兩 白檀一分

已上大

157 西 神 羣 後 古 (欠) 鶴 後

杏 (無し) 岩 後。

甲香一両 麝香二分 薰陸一分 22 丁ウ

沈六両 丁子三両 白檀一分二朱

甲香一両二分 麝香三分 薰陸一分 已上小

山田尼

沈四両 丁子二両 麝香二分

甲香一両二分 薰陸一分 白檀一分

尼のいはく、るほうにハ麝香をすゝめ

たるいとかうはし

二条關白 23 丁オ

沈四両 丁子二両 白檀一分

甲香一両 麝香二分 薰陸一分 已上大

香八両 甘葛八両

治曆四年四月六日被合三一臍¹⁶¹

堀川右大臣

沈四両 丁子二両 甲香一両二分

麝香二分 薰陸一分 已上大 白檀一分 但小二分廿分 量七天

坎方 或註黒方 23 丁ウ

163

西 但小二分可

盆量ヒ天

神 但小二分可

然款ヘカラ 分量ヒ天

鶴 但小二分廿分

但量七天

羣 但小二分可

然量ヒテ

古 但少二分可分

量七天

香 岩 (欠)

承和秘方

沈四兩 ¹⁶⁵
 甲香一兩一分 ¹⁶⁶
 白檀一分
 麝香二分
 薰陸一分 已上大
 薰衣香 ¹⁶⁷ 一名躰身香

八條宮

沈九兩
 白~~沙~~ ¹⁶⁸ 一兩
 占唐一兩
 公忠朝臣 ¹⁶⁹
 沈三兩
 甘松二兩
 麝香一兩 或麝香一兩
 甲香五兩
 丁香一兩
 蘇合一兩半
 青木香二兩
 白檀二兩
 麝香半兩

┌ 24 丁才

能合て緞袋に入れて無透間き管中に
 置て其上を又裹て能暖にして酒
 作る壺のうへに置てにははせよ ¹⁷⁰

或方 ¹⁷¹

丁子
 藿香
 零陵香

┌ 24 丁ウ

青木香

甘松 已上各三兩

白芷

當歸

桂心

檳榔子 已上各一兩

麝香 二分

右十物細搗絹篩為粉以蜜和搗一千杵

然後出之丸如棗核口含咽汁盡一求

176 三日利含十二丸當日自覺二口香一五日

自覺二躰香一十日衣被¹⁷⁸久¹⁷⁹香、廿日逆¹⁸⁰風行

他人聞香廿五日洗¹⁸¹手而水落¹⁸²地香一月已

後抱兒¹⁸³之¹⁸⁴香、唯忌¹⁸⁵蒜及五辛等一不¹⁸⁶

只口香體潔¹⁸⁷治¹⁸⁸万病¹⁸⁹一¹⁹⁰方¹⁹¹有¹⁹²香附子

唐僧長秀 四作¹⁹³薰衣香一用¹⁹⁴蜜和合是

奇方也作¹⁹⁵盜盆¹⁹⁶但盆下若煙處¹⁹⁷穿¹⁹⁸其底一重

四五口許其最上盆出小煙之孔穿三五處一

以¹⁹⁹坩²⁰⁰或時²⁰¹差²⁰²塞²⁰³力²⁰⁴或時取去以²⁰⁵薰爐一居盆

下割²⁰⁶沈香²⁰⁷燃²⁰⁸之其煙多着²⁰⁹盆裏²¹⁰而、或

如²¹¹露落²¹²爐邊²¹³其時止也、出²¹⁴爐而居²¹⁵外取²¹⁶

盆以²¹⁷木倍良、判取²¹⁸其脂²¹⁹入²²⁰一器之中一取²²¹

沈香一任²²²法春篩和²²³二件²²⁴沈脂²²⁵而盛²²⁶温²²⁷器之一²²⁸

「 25 丁才

「 25 丁ウ

179 西名神^亦古名鶴^亦名杏^忽

岩 亦 (頭書「亦」)

羣 亦

182 西鶴岩羣古名神^亦名杏^忽

186 西鶴杏岩羣古名神^兼

187 西杏岩羣古亦神^亦名鶴^本

F 他本「四」

G 他本ここに「調」あり

H 他本「寒」

内納メ量リ取之、任用其香極芬芳也

195 洛陽薰衣香 出三淳和院一但公忠朝臣所献也

196 沈五兩 甲香二兩二分 丁子一兩

白檀一分 已上大 麝香一分 占唐一分

蘇合一分 已上小 丁枝二兩 I※

197 會昌薰衣香 198 隨時朝臣所献也

沈三兩 大 丁子二兩 大 甲香一兩二分 大

白檀一分四朱 小 青木香二分四朱 小 占唐一分四朱 小

蘇合二分 小 麝香四朱 大

200 增損薰衣香 八条宮所上

沈三兩 甲香一兩二分 白檀一分

青木香二分 丁子一兩 占唐一分二朱

麝香一朱 已上大

201 增損化度寺

沈一斤 202 薰陸二兩 香附子二分

甲香一兩 丁子一兩 零陵香二分
L 26 丁ウ

I 他本ここに「大」あり

麝香一朱 已上大
增損化度寺

沈一斤

薰陸二兩

香附子二分

甲香一兩

²⁰³丁子一兩

零陵香二分

藿香二分

艾納二兩

麝香二分

蘇合三兩

已上小

²⁰⁴ 205
或注薰衣香
衰衣香

邠王家

零陵七兩

沈二兩

丁子二兩

蘇合二兩

占唐二兩

藿香三兩

鬱金一兩

麝香二兩

右八種各別搗為散和合但蘇合占唐

以手按碎和之

承和百步香

²⁰⁶ 此方出自四條大納言家大江千古所上耳

甲香八兩

蘇合一斤

占唐一斤

白檀八兩

零陵八兩

²⁰⁷ 藿香四兩

甘松花四兩

乳頭香五兩

白膠二兩二分

27 丁ウ

27 丁才

麝香四兩

麝金二兩二分 已上小

甲香一分

蘇合二分 占唐二分

白檀二分

零陵一分 藿香三朱

甘松三朱

乳頭四朱半 白膠二朱

麝香三朱

麝金二朱半 已上為成 四分之二 所分出也

210 右十一種搗篩蜜和之於三瓷器中一盛埋

經三七日取燒百步之外聞レ香

百和香

沈四兩

丁子二兩 甲香一兩 已上大

熟麝金一兩

甘松一兩 已上少

寬平六年九月十日八条一品宮於御前

写給百和香方也

211 亦稱黑方是誤歟 亦名三侍從

212 化度寺百和香

沈六斤 代沈底

薰陸二斤 甲香七兩

香附子三兩

丁子二兩 零陵四兩

藿香二兩

214 艾納一兩 代青木香 麝香三兩 代白檀

蘇合七兩 或三兩

蜜一斗 以上小斤

28 丁ウ

209 西 神 試 古 鶴 杏 減 岩 減

右十種末之蜜去^レ沫令^レ冷淨濂和搗干²¹⁵

杵蜜封²¹⁷ 或作^レ蜜用^レ蠟²¹⁸ 七日後即成

令人體香

甘草

依子²¹⁸

大棗²¹⁹

松皮

已上分等末^レ食²²⁰服^レ三方寸^レヒ三^レ也百日衣服

甚香

浴湯香

荳蔻²²¹ 荳蔻香一兩

零陵一兩

茅香一兩

甘松一兩

右^レ以^レ水作湯治^レ之任²²²。意量^ニ多少^ニ以^レ足為^レ限²²³。或本加^ニ澤蘭²²⁴一兩^一。

落梅公主潤面膏方

新雕經驗藥方云

酥

一斤貞者於^ニ銀器²²⁵內^レ大煎成^レ油用²²⁶

鵝梨汁

少許

梅塩花²²⁷

一兩研²²⁸

馬牙消²²⁹ 一兩

柳汁²³⁰

少許

右件藥與^ニ諸般^ニ都入^ニ酥內^ニ用^ニ東南嫩柳枝

「 29 丁ウ

「 29 丁才

222
羣西
浴神
杏
岩
治
舌
(欠)
鶴
垢^浴

甲煎一

建醫師衣香方

此方若薰衣香燻

241

沈香八兩

煎香七兩

白檀二兩

蘇香半兩

白膠半兩

麝糖一兩

甲香一兩

薰陸一分

麝香一錢重

龍腦一錢重

麝金一錢重

香粉方 出極要方

白附子

伏苓

白朮

白芷

白斂

白檀

青木香

鷄舌

零陵

藿香 各二兩

麝香一分

蒿根

麻黃根

滑石 各五兩

粉英 六升

已上各々搗篩以三粉英一取²⁴²包²⁴³青黑者²⁴⁴廉

搗紗篩、貯²⁴³囊中一置²⁴³大合一以²⁴⁴粉覆²⁴⁴之蜜

閉七日、後取²⁴⁴之粉香即成●而、白如本俗

為²⁴⁴香粉一不問²⁴⁴白黑一以²⁴⁴和為²⁴⁴粉²⁴⁴雖²⁴⁴香而

色主黑²⁴⁵※²⁴⁵漬²⁴⁵分別²⁴⁵用²⁴⁵之不²⁴⁵悉和²⁴⁵粉

┌ 31 丁才

┌ 31 丁ウ

燒香方

沈一斤

甲香六分

薰陸四分

蘇合二分

246 音也

247

248

治銷也 剉治如法漬蜜合和盛瓷埋地經旬出

錯也 用之

印香法

新雕經驗藥方

沈香 五兩 細剉

檀香 四兩細剉 如菓子

生結香 四兩 細剉

零陵香 二兩 細剉

藿香葉 二兩細剉 焙乾

香附子 一兩去黑皮 煉紅色者

甘松香 二兩去塵 250 細剉

253 草茅香 新者雷細 剉之塵土

麻黃 一兩去根 細剉

甘草 251 麩者一兩 剉 息押細剉

乳香 一兩頭 高

龍腦 熟腦子亦得生 腦子更強三錢半

好麝香 二錢半

255 珀 一分

右件藥十四味並焙乾細搗羅為末於

256 金漆子內盛、却不得透氣更着紙

袋盛、之要使用、取常於暖處安存不得

犯陰氣

32 丁ウ

247 西 神利古 (欠) 鶴 剉

香刻岩刻羣劑

251 西 神香岩羣土 (欠) 鶴云

253 岩 恩のみ有り 「草茅香」から「甘草」